

小学校音楽科におけるアクティブラーニングの考え方 — 学習活動例の類型化と実践例の分析 —

西村 敬子

Consideration about Active Learning in Teaching Music at an Elementary School — Typification of a Learning Activity Example and Analysis of a Practice Example —

Keiko Nishimura
(2015年11月27日受理)

I 研究の基本的な考え

1 主題について

(1) 主題設定の理由

グローバル化は我々の社会に多様性をもたらし、急速な情報化や技術革新は我々の生活を質的にも変化させつつある。このように将来を予測することが困難な時代を前に、子どもたちには現在と未来に向けて、自らの人生をどのように拓いていくのが求められている。

2030年から先の豊かな未来を築くため、文部科学省は教育課程を通じて果たすべき役割を示すべく、平成26年11月20日「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」を中央教育審議会に諮問した。その中では一つの柱として「課題の発見と解決に向けて主体的に学ぶ『アクティブラーニング』や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があることや学習評価の在り方についても改善を図る必要があること」が示されている。

過去、このようなキーワードが出されると、学校の教育活動は試行錯誤したり迷走したりする場面も多くみられた。音楽科教育においても、平成元年の学習指導要領で「つくって表現する」活動が示されると、音楽とはおおそかけ離れた子どもの自由な発想のみを大切に表現に焦点が当てられその評価に教師は翻弄されたり、平成20年の学習指導要領で「和楽器」を取り入れた実践が位置付けられると、そのねらいが十分に認識されないまま、ただ子どもたちが和楽器を演奏する学習が見られたりもした。

ところで、小学校音楽科においても、問題解決学習や

体験活動の重視など子どもが主体的に学ぶアクティブラーニングと言える学習は、既に取り入れ実践されている。金本正武は著書「子供と音楽のかかわりを深める音楽科授業論」の中で「学校の音楽教育は音楽の表現及び鑑賞の活動を通して得られる豊かな音楽体験を重視して、創造性や協調性、社会性、あるいは深い探究心などを育成するとともに、知性と感性の調和がとれた人間を育成することを目指しているのである。」と記しており、アクティブラーニングを通して子どもを育てることの重要性について述べている。

また、平成27年8月にとりまとめられた中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会教育課程企画特別部会における論点整理の中では、学校教育法第三〇条第二項に示された「基礎的な知識・技能の習得」「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力」及び「主体的に学習に取り組む態度」のいわゆる学力の三要素から構成される「確かな学力」をバランスよく育むことをめざし、習得・活用・探究という学習過程の中で、学級やグループで話し合い発表し合うなどの言語活動や、他者、社会などと直接的にかかわる体験活動等を重視するとされたところである。

さらに小学校学習指導要領解説音楽科編では、目標「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」を達成するため、「自らの課題を踏まえ、音楽のよさを感じ取り、思いや意図をもって表現したり音楽全体を味わって鑑賞したりする力や音楽文化を理解し、豊かな情操を養う」ことや

「音や音楽を知覚し、そのよさを感じ取り、思考・判断する力の育成する」ことが重要とされている。音楽活動そのものを楽しんだり音楽に感動したりする体験を積み重ねるとともに、友だちとかかわり合いながら音楽の喜びを分かち合う学習を大事にして、生涯にわたって「音楽を愛好する心情」や「音楽に対する感性」「音楽活動に必要な基礎的な能力」を身に付け、「豊かな情操」を養うのである。

このように子ども自身が創造性や協調性、社会性、探究心などを身に付け、主体的・能動的に学ぶアクティブラーニングは、過去に実践された授業の学習指導案の中にも数多く見つけることができる。しかし、アクティブラーニングの実践は授業の中で具体化はされているものの、まだ典型的にとらえられていない。

そこで、過去の音楽科の実践例からアクティブラーニングに当てはまる活動を類型化し分析することは、今後アクティブラーニングを大切にしたい音楽科教育研究を進めるうえで価値があると考えられる。

2 主題、副主題の意味

(1) 「小学校音楽科におけるアクティブラーニング」とは

学習指導要領解説音楽科編や金本正武も述べているように、音楽科教育では自らの課題解決に向け、音や音楽を知覚し、そのよさを感じ取り、思考・判断する力を身に付けること、習得・活用・探究という学習過程の中

で、創造性や協調性、社会性、あるいは深い探究心などを育成し、知性と感性の調和がとれた人間を育成することが求められる。このことを受け、小学校に音楽科におけるアクティブラーニングとは、音楽にかかる学習課題の発見と解決に向けて、創造性や協調性、社会性、あるいは深い探究心などを育成し、知性と感性の調和がとれた人間を育成することをめざす主体的・協働的に学ぶ学習であるととらえる。

例えば、曲想を豊かに表現するため、学級全体またはグループごとに分かれて表現を工夫し練り上げたり、「もっと迫力ある演奏にするためにはどのように表現したらよいのだろうか」と問題意識をもち表現方法について試行錯誤したりする活動が、また、鑑賞会に参加するなどの直接体験や自分たちで模擬演奏をしてみるなどの間接体験もアクティブラーニングにつながると考える。

(2) 「学習活動例の類型化」とは

小学校音楽科でこれまでに実践された学習活動例について、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）用語集（平成24年8月28日）」「学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）（平成20年3月25日）」を参考に、表-1のように6つに分類することにした。

小学校音楽科で考えられるアクティブラーニングの具

表-1 アクティブラーニングの類型

「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」（「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）用語集」（平成24年8月28日）より	
「学習の動機付けを図りつつ、双方向型の学習を展開するため、講義そのものを魅力あるものにすると共に、体験活動を含む多様な教育方法を積極的に取り入れる。学生の主体的・能動的な学びを引き出す教授法（アクティブ・ラーニング）を重視し、例えば、学生参加型授業、協調・協同学習、課題解決・探求学習、PBL（Problem/Project Based Learning）などを取り入れる。大学の実情に応じ、社会奉仕体験活動、サービス・ラーニング、フィールドワーク、インターンシップ、海外体験学習や短期留学等の体験活動を効果的に実施する。学外の体験活動についても、教育の質を確保するよう、大学の責任の下で実施する。」（「学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）」（平成20年3月25日）より	
「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）などで示されているアクティブラーニング	今回分類したアクティブラーニング
課題解決・探求学習	課題解決・探究学習
調査学習	
発見学習	問題解決学習
問題解決学習	
体験学習	児童参加型授業
学生参加型授業	
協調・協同学習	協調・協同学習
グループワーク	グループ活動
ディスカッション、ディベート	言語活動の充実を図る活動

体的学習としては

- ① 課題解決・探究学習
- ② 問題解決学習
- ③ 児童参加型授業
- ④ 協調・協同学習
- ⑤ グループ活動
- ⑥ 言語活動の充実を図る活動

などに分類できると考える。

今回分類したアンティブラーニングにおいて、「課題解決・探究学習」は「題材のねらいなどをはじめあらかじめ設定されたテーマを追究していく学習」ととらえ、「問題解決学習」は「授業で提示された学習問題や自分で設定した学習問題を解決する学習」ととらえた。また、小学生の子どもたちにとって解決の過程を大切にしながら答えを導き出す活動は「探求」よりも「探究」が適切だと考え「探究活動」とした。

(3) 「学習活動例の類型化と実践例の分析」とは

類型化した学習活動例に当てはまる実践例を提示し、題材のねらい、題材構成、題材の指導計画の中から学習活動例の具体的な例について示し考察したものである。

3 研究の目標

小学校音楽科において学習活動例を類型化し、当てはまる実践例を分析することで、小学校音楽科におけるアクティブラーニングの考え方を明らかにする。

4 研究の仮説

小学校音楽科学習の活動例を類型化し実践例を分析していけば、小学校音楽科におけるアクティブラーニングの考え方を明らかにすることができるであろう。

II 研究の内容

1 アクティブラーニングの活動例と小学校音楽科学習活動例の類型化

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）（平成24年8月28日）用語集より」「学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）」を参考に、以下の表のとおり、音楽科学習におけるアクティブラーニングを次の6つに類型化した。

次ページ表－2は音楽教育研究会等の公開授業指導案から、アクティブラーニングとしてとらえることができる学習活動を挙げたものである。

2 実践例の分析

(1) 課題解決・探究学習

- ① 5年生題材「歌おう、調べよう、広げよう『ベートーベンの世界』」
5年生の学習である。よく耳にする第九の合唱の部

資料1 「歌おう、調べよう、広げよう『ベートーベンの世界』」

題材名 「歌おう、調べよう、広げよう『ベートーベンの世界』」 教材名 「第九交響曲」から合唱の部分 「運命」から一楽章		
指導計画		
1 3	◎「合唱の部分や『運命』を鑑賞し、感想を発表しよう」 ○合唱の部分や『運命』を鑑賞し、曲想をつかむ。 ○作曲家について知る。	※レーザーディスクといった映像を備えたものを提示することで、曲想を豊かに感じ取れるようにする。
2 3	◎「ベートーベンの音楽のすばらしさを見つけるため、自分の学習課題を追究しよう」 ○自分の学習課題を持ち、発表会までの学習の流れをつかむ。 ○学習課題を追究する。 ◆自分の学習の結果が伝わるように発表方法を工夫する。 A：ベートーベンの一生と音楽について調べる。 B：歓喜の歌を2部合唱する。 C：自分の歓喜の歌を作る。(MIDI) D：歓喜の歌のリコーダーアンサンブルをする。 E：ベートーベンの曲を指揮する。「歓喜の歌」『運命』	※課題を決めた理由を明確に持たせることで、課題追究学習に意欲的に取り組めるようにする。 ※各時間の終わりに活動を振り返る自己評価活動を設定し、必要に応じて計画を修正するよう指示する。
3 1	◎「ベートーベンの世界を広げる発表会をしよう」 ◆発表会で課題学習の結果を交流し合い、自分の考えの広まりを記録文に書く。	※友達と自分の考えを比べることで友達の見え方を見つけるよう助言し、自分の考えをふり返るようにする。

【平成11年音楽教育推進事業団“21世紀の会”
研究助成福岡市平尾小学校研究発表会要録より】

分や「運命」を教材に、子どもの音楽に対する考えを広めることをねらっている。合唱の部分や「運命」の曲想を感じ取り、ベートーベンの音楽について自分の学習課題を自己決定し同じ課題をもった子ども同士でグループを作り、課題解決学習にあたっている。

解決にあたっては、課題毎5グループに別れ、「ベートーベンの一生と音楽」についての調べ学習のほか、実際に二部合唱で「歓喜の歌」を合唱したり、リコーダーアンサンブルしたりして自分たちで音楽表現する学習が行われている。最後は発表会を開き、それぞれの成果を交流し、一人一人、ベートーベンの音楽に対する考えの深まりを記録文にしている。題材の学習に入るとき自分の考えと学習後の自分の考えを比較しその深まりを知ることは自分のベートーベンの音楽に対する認識を深め、達成感を味わうことができる。また、課題解決に至る方法は、他教科や総合的な学習の時間での課題解決・探究学習にも生かすことができ、さらなる主体的・能動的な学びにもつながると考える。

このような課題解決・探究学習は、長時間に渡りグループで学習を進めていくことになるため、年間指導計画の中において他の題材とのバランスに考慮しなければならない。また、教師は子ども一人一人の課題や

表ー2 小学校音楽科におけるアクティブラーニングの類型化

今回分類した アクティブラーニング	小学校音楽科における学習活動例
(1) 課題解決・探究学習	<p>○音楽科の授業において題材のねらいを探究する活動 等</p> <p>資料1 5年生題材「歌おう、調べよう、広げよう『ベートーベンの世界』」において、子ども自身が興味をもった課題を選択し、課題別のグループで課題解決に取り組む学習活動【平成11年度音楽教育推進事業団“21世紀の会”研究助成研究発表会要録より】</p>
(2) 問題解決学習	<p>○授業で提示される学習問題を解決する活動 等</p> <p>資料2 6年生題材「曲想を感じ取って聴いたり演奏したりしよう」において、「木星」の気分やイメージを生かし、強弱の工夫など工夫の観点を明らかにして、グループで「木星」の演奏を練り上げる活動【平成22年度福岡市教育センター研究紀要（第847号）より】</p>
(3) 児童参加型授業	<p>○表現・鑑賞の活動や鑑賞教室等の直接体験する活動 等</p> <p>資料3 5年生題材「雅楽の響きに親しもう」において、雅楽の特徴や雅楽器の音色をつかむために、鑑賞会やワークショップなど直接体験、模擬体験する活動【平成15年著者実践】</p> <p>○体を動かす活動等、能動的に学習に取り組む活動 等</p> <p>資料4 1年生題材「ようすをおもいうかべながらきこう」において、「おどるこねこ」の3つの場面の曲の気分を感じ取り、こねこがどんなおどりをしているのかをつかむために、主な旋律を口ずさんだり体を動かしたりする活動【平成17年福岡市立平尾小学校研究紀要より】</p>
(4) 協調・協同学習	<p>○個々の考えを出し合い、音楽の表現を高めたり、曲想を捉えたりする活動 等</p> <p>資料5 1年生題材「まねっこあそびをたのしもう」において、自分たちの音楽表現を創意工夫するために、曲の感じと言葉のリズムやリズムの反復等との関係を感じ取ったり聴き取ったりしながら、「フルーツケーキ」を全員でデコレイトし音楽を完成させていく活動【平成25年度九州音楽教育研究大会研究紀要より】</p> <p>○全体で一つの作品をつくり上げる活動</p> <p>資料6 2年生題材「音楽でおはなしをつくろう」において、「ブレーメンの音楽たい」の話の3つの場面の音楽をつくるため、グループに分かれて速さ、強さ、楽器の音程を観点に表現を工夫し、様々な演出を加えて学級で音楽劇をつくり上げる活動【平成17年福岡市立平尾小学校研究紀要より】</p>
(5) グループ活動	<p>○共通の問題意識をもった子どもたちで、思いを出したり解決したりする活動 等</p> <p>資料7 5年生題材「言葉のイメージから音楽をつくろう」において、雪が降る様子の変化を音楽で表すために、グループに分かれて、グループ活動の進め方の手順に従い、音楽の始まり方や終わり方など表現を工夫する活動【平成25年度福岡市教育センター研究紀要（第952号）より】</p>
(6) 言語活動の充実を図る活動	<p>○自分の音楽表現に対する思いや意図を出したり鑑賞活動に対して批評したりする活動 等</p> <p>資料8 2年生題材「ようすをおもいうかべてきいたり歌ったりしよう」において、「こぎつね」の1番と2,3番の歌詞や挿絵やからこぎつねの気分を出し合い、速度や強弱を工夫して表現を練り上げる活動【平成22年度福岡市教育センター研究紀要（第847号）より】</p>

課題解決の過程を把握し、子どもの自己評価を累積しておく必要がある。子どもの学習プリントや表現を記録したポートフォリオなどの情報は、次学年に進み指導者が変わった場面でも子どもの実態を把握するうえでも役に立つ。

具体的な授業においては、各グループの毎時間の課題を把握しグループ活動のねらいを明確にさせることが必要である。子どもたちが自主的に学習を進める中では、教師はファシリテーターの役に徹し、子どもたちの主体的な学習を支援することが重要になってくる。このような課題解決・探究学習では、教師一人で全てのグループ活動の全てを見届けることは難しいため、ティームティーチングで実施するなど複数の教師を配置して指導する体制をとりたい。また、グループの数だけ教室や空間を確保することも必要な条件となる。

(2) 問題解決学習

② 6年生題材「曲想を感じ取って聴いたり演奏したりしよう」

6年生の学習である。4/8時で「宇宙の広がっていく感じを合奏で表そう」というめあてをもっている。

子どもたちは自分の演奏で宇宙の広がりをどのように表現しようか問題意識をもち、試行錯誤しパート内で表現を練り上げている。

「曲の盛り上がりに合わせてだんだん強く演奏したい」「終わりはだんだんゆっくりと演奏して宇宙が広がっていく感じを出したい」と思いをもち、楽曲の盛り上がりの場面では楽器の数や強弱の変化を、楽曲の終わりの場面では速度を遅くするタイミングや強弱の変化を工夫している。

一人一人が問題意識をもち、個々の演奏をよりよいものにしようと試行錯誤する姿がアクティブラーニングにつながると考える。さらに、子どもたちは、いろいろなパートから出された表現の工夫も取り入れ、演奏を通してそのよさを認めながら、学級全体の合奏を高めている。

合奏指導においては、子どもたちは「演奏できるかできないか」と自分の技能に意識が向きやすい。教師も子どもたちに個人練習に時間をさき、ある程度演奏できるようになったら合奏をして学習を終わる傾向にある。しかし、大切なことは、子ども一人一人が自分の表現を高めるためにどのように自分の課題をもち、どのように試行錯誤して自らの課題を克服していくかということである。創造的に学習を進め合奏表現を価値あるものにするためには、学級級全体で「宇宙の広がっていく感じを合奏で表そう」という拡散的思考と自分がそのためにどのように演奏したらいいのか考える収束的思考の組み合わせを考えて授業を展開することが大切である。その中で創造的な表現が生まれ、子どもたちに協調性や深い探究心などを育成することができる。

資料2 「曲想を感じ取って聴いたり演奏したりしよう」

次	教材	時	主な学習活動及び内容	目標を具体化させる手立て	形成的評価と層に応じた指導
1	木星 (管弦楽組曲)	1	「曲想を感じ取って聴いたり演奏したりしよう」 「木星」を指図する。 ・オーケストラの響きや曲想を味わいながら聴く。		○オーケストラの楽器を提示しておく。 ○木星の画像を提示する。
2	木星 (管弦楽組曲)	2	「木星」の中間部分を指図する。 ・ゆったりとしてやさしい感じ。 ・音の重なりが増えていき、宇宙が広がっていく感じ。		
3	木星 (管弦楽組曲)	3	「木星」を演奏する。 ・正しい音やリズム。		【児童の自己評価】 ・「木星」のイメージに合うようにいくつ工夫することができたか。 ・工夫して曲の感じがどう変わったか。
4	木星 (管弦楽組曲)	4	パートごとに表現を工夫し、「木星」を演奏する。 他のグループの表現の工夫を取り入れ、自分たちの表現を見直す。	○指図で感じ取った曲想を想定の。 ○自分たちの演奏が指図で感じ取った曲想を生かした演奏か聴く。	【教師の評価】 ◆工夫をいくつしたか。 (観察・学習プリント) ◆どんな要素に着目して工夫したか。 (学習プリント・観察) ◆工夫してどう変わったか。 (発言・学習プリント)
5	木星 (管弦楽組曲)	5	曲想を生かした演奏の仕方を工夫し「木星」を演奏する。 ・強弱の工夫 ・速さの工夫 ・音色の工夫		【他に応じた指導】 ・他の要素に着目して表現を工夫する。 ・他のグループと合わせて演奏する。 ・音程やリズムを正しく演奏できるように、繰り返し練習する。 ・具体的な工夫を書いたカードを提示する。
6	木星 (管弦楽組曲)	6	歌詞の表す情景や気持ちを想像し、曲想を感じ取る。 ・前向きな気分で・明るく。	○前時で感じ取った曲想を提示する。	
7	木星 (管弦楽組曲)	7	曲想を生かした歌い方を工夫し「一日一歩の未来」「広い空の下」を合唱する。 ・強弱の工夫 ・リズムの工夫。		

【平成 22 年度福岡市教育センター研究紀要(第 847 号)より】

(3) 児童参加型学習

③ 5年生題材「雅楽の響きに親しもう」

5年生の学習である。この学習では、我が国の音楽に代表される雅楽に触れた子どもたちが雅楽の特徴やよさを知り、生活の中の場面でも我が国の音楽について聴いてみよう調べてみようとする態度を育成することをねらっている。2時間目の楽所によるワークショップでは、子どもたちは雅楽器に触れてその音色を味わい演奏方法を試しながら、1時間目にとらえた雅楽の特徴を確かめている。雅楽器に触ったり音を出したりする直接体験は、子どもたちにとってより雅楽器を身近なものに感じるとともに興味を引き出すものとなっている。

3次には身近な楽器を使って器楽曲「越天楽」を演奏する。前時までにつかんで雅楽の拍やリズムのずれ、ポルタメント的な奏法などの特徴を生かして自分たちの越天楽を演奏している。直接楽器に触れたりす

資料3 「雅楽の響きに親しもう」

題材名 「雅楽の響きに親しもう」
 教材名 雅楽「越天楽」
 歌唱曲 「越天楽今様」

指導計画

配時	学習活動・内容	手だて・留意点・評価
1	雅楽響きを味わおう	雅楽「越天楽」と雅楽「越天楽」を比較して、雅楽の持つ音の特色を感じ取るために、フルートと琵琶の音を聴かせるようにする。
1	雅楽と西洋の管弦楽を比べ、雅楽の音色の特色を感じ取る。 ・楽器の音色 ・笙の和音	雅楽の響きのよさを味わっているか。 雅楽曲に興味を持った子に対しては、マルチメディア型ソフトが音源に使えるように準備しておく。
1	雅楽の演奏会を聴く。 ・鑑賞会 ・質問 ・雅楽器体験	雅楽の演奏を直接聞いたり、雅楽器の体験演奏をしたりすることで、雅楽に対する興味心を高めているか。
1	雅楽の表現の特色をとらえる。	合奏の仕方の特徴についてとらえるために既習の合奏曲「大黒河の音の出だしと比較するようにする。 雅楽の音色に近い音色を DTM の音からも選択させる。 2グループの演奏を比べ、音色の選別の工夫や表現の工夫を軸による自己評価・相互評価させる。 雅楽の特色をとらえているか。 雅楽の特色をとらえて演奏しているか。
1	雅楽「越天楽」の合奏を通して雅楽の演奏の仕方とその特色をとらえる。 ・笙の和音や合奏におけるリズムや音程のずれ。 ・盛り上がり、雅楽の効果。 ・ホルンメント演奏。 ・伸びる拍、加速的・減速的リズムの変化。	雅楽の特色をとらえているか。 雅楽の特色をとらえて演奏しているか。
1	雅楽にもっと親しもう (課題追究学習) ・課題の設定 ・学習計画の設定	課題学習の見通しは持っているか。 課題の雅楽「越天楽」の演奏を通して、楽器・合奏の特色・演奏の様子を比較させることでそれぞれのよさを味わわせる。 がみんさん(クラリネット、ブラス)の演奏を通して楽器の音色や演奏の様子を比較させることでそれぞれのよさを味わわせる。 課題に応じた資料を準備する。 曲想・種別など課題学習に取り込んでいるか。 課題に応じて工夫した発表がされているか。
1	ワークショップを開こう	

【平成 15 年著者実践より】

る体験や雅楽をまねて身近な楽器で演奏する疑似体験はアクティブラーニングにつながると考える。

一般的な音楽鑑賞会は、子どもたちは受身の学習になりやすい。楽器に触ったり演奏者と触れ合ったりできるワークショップを取り入れることで、事前に自分の学習課題を作り、音楽鑑賞会の場面で自分の課題の解決を図るなど、より積極的アクティブラーニングができると考える。さらに課題解決の過程で新たな課題をつかむこともあるだろう。鑑賞会終了後には新たな課題解決を図るとともに自分の課題解決の過程をまとめ、発表し交流し合う授業を組み立てることができる。教師はどのように子どもたちの考えを統合、発展させるか考え、意図的に授業を組み立てることが大切である。

④ 1年生題材「ようすをおもいうかべながらきこう」

1年生の実践である。「おどるこねこ」の鑑賞曲で猫がどんな踊りを踊っているのかを想像し楽曲の気分を感じ取らせることをねらっている。

子どもたちは、主なふしを口ずさんで覚えた後、主なふしが出てくる場面Aと場面Cが同じであることを確認する。場面Bについては実際に猫になって踊って

資料4 「ようすをおもいうかべながらきこう」

題材名 ようすをおもいうかべながらきこう
 教材名 「おどるこねこ」
 指導経過

過程	考えをもつ・考えを出し合う。	考えを繰り返す・考えを共感し合う・考えを創りあげる。
配時	1.	1 (本時)
学習内容	○ 序奏とコーダを部分的に聴き、子ねこが何をしているところなのか、関心をもつて聴くこと。 ○ 序奏とコーダの間に、子ねこがどんな様子で踊っているのかを想像しながら全体を聴くこと。	○ 3つの場面の子ねこの様子を想像して聴くこと。 ○ 全体の音楽の流れを捉え、踊る子ねこになりきって、身体反応しながら聴くこと。

過程	学習活動と内容	指導・支援
1	前時の学習を想起し、本時の学習のめあてをつかむ。 ○ 前時学習の想起。 ・はじめ(序奏) なか(A-B-A) 終わり(コーダ)の3つを部分的に聴き、子ねこの様子を想像したこと。 ○ 本時学習のめあて。 「これほどおどりをしているのだろう。」	○ なかの部分を聴くことで、子ねこはいとも同じ踊りばかりしているのではないことに気付くことができるようにする。
2	主な旋律を聴き、覚える。 ○ Aの部分の最初のふしを、歌い覚えること。	○ 主なふしに歌詞をつけて、子ども達が楽しく歌い覚えられるようにする。
3	3つの場面やその移り変わりをとらえて聴く。 ○ 3つの場面があること。 ○ 3つ目の場面は1つ目の場面と同じA-B-Aの構成になっていること。	○ 主なふしを○Dに合わせて歌うことで、主なふしが歌える部分と歌えない部分があることに気付かせる。 ○ 1つ目と3つ目の場面は「二二二」が歌えたことを視覚的にとらえることができるように、指示カードを提示する。 ○ それぞれの場面の音楽に身体反応しながら聴くことで、どんな踊りしているのかを考えられるようにする。
4	3つの場面のおどる子ねこの様子を想像しながら聴く。 ○ 曲想から3つの場面の子ねこの様子を想像すること。 序奏 A B A コーダ おどる子ねこ 子ねこ 子ねこ 子ねこ 子ねこ 3つの場面 ○ 3つ目の場面の様子を1つ目、2つ目の場面と比べて考えること。	○ Bの場面では、Aと同じではないことに気付かせる事で、Aとは違う踊り考えられるようにする。 ○ 1人の気付きを全体に広げたり場面ごとの子ねこの絵を黒板に提示することで、場面の移り変わりや聴きながら想像できることにする。 ○ 3つ目の場面の子ねこの様子を考えると、1つ目と同じ音楽だが、踊っている様子も同じになることをとらえることができるようにする。 ○ 曲の感じを強くとらえて、身体反応している現象の動きを紹介することで、友達の様子に目を向けられるようにする。
5	踊る子ねこになりきって、身体反応しながら聴く。 ○ 3つの場面の移り変わりをとらえて、身体反応しながら聴くこと。 ○ 身体反応しながら聴くことの楽しさを味わうこと。	○ 子ねこの様子を表現の動きのよさも取り入れて表現している部分を具体的に言葉に言い換えて、身体反応しながら聴くことの楽しさを味わうことができるようにする。

【平成 17 年福岡市立平尾小学校研究紀要より】

いるつもりで体を動かしながら場面A場面Cと曲の気分が違うことを感じ取る。教師は子どもたちの動きを観察して、踊りの違いがうまく表現できている子どもの表現を紹介しながら、学級の子どもたちにA-B-Cの場面の猫たちが踊る様子・曲の気分の移り変わりをとらえさせている。

低学年の子どもたちにとって体を動かす活動は音楽の中に入り込み主体的・能動的に曲想をつかむことができる活動であり、アクティブラーニングの一つである。

体を動かす活動は、音楽との一体感を味わい、想像力を働かせて音楽とかかわらせるうえでぜひ取り入れたい活動である。想像力を働かせて音楽とかかわるといことは、音楽の場面や様子、情景などに対するイメージを具体的にもつと同時に、楽曲の構造を把握して表現や鑑賞の活動の見通しをもつことである。子どもが思いや意図をもって主体的に表現し、創造的に鑑

賞して音楽美に迫る学習はアクティブラーニングにつながる。この時に教師は体を動かす活動は「ねらい」ではなく、音楽を感じ取る活動を支えるものであることを踏まえておかなければならない。

(4) 協調・協同学習

⑤ 1年生題材「まねっこあそびをたのしもう」

1年生の子どもたちは、学習に興味をもつことはもちろん、学習活動そのものを楽しまなければ、主体的・能動的に学ぶことはむずかしい。ふかめる段階2/2で、交互唱や言葉のリズムの面白さを感じ取りながら歌う授業である。

「うたでおいしいみんなのふるうつけえきをつくらう」というめあてをもち、フルーツの名前のリズムに合わせて拍子をうち、拍の流れに乗りながら交互唱している。黒板には子どもたちがリズム打ちしたフルーツの絵がケーキがさがされ、子どもたちの活動にあわせておいしそうにフルーツケーキが作り上げられていく。

1年生の子どもたちが、フルーツケーキをつくりたいと夢中になり、フルーツの名前を三拍子にのせて唱える活動を繰り返している間に、交互唱や交互奏をする力を身に付け、みんなで協同して自分たちだけの価値ある音楽をつくり上げたアクティブラーニングである。

全員の子どもたちが学習のめあてを理解していること、フルーツの名前を三拍子に合わせて唱えるという活動を理解していること、フルーツケーキなどの絵が子どもたちの学習意欲を高めたことなどが子どもがアクティブラーニングに夢中になった条件として考えられる。

⑥ 2年生題材「音楽でおはなしをつくらう」

「ブレーメンの音楽たい」のお話の中の3つの場面を選び、学級全体でそれぞれの音楽を楽しくつくる学習である。本時では、2の場面「どろぼうをおどろかすどうぶつたちのようすを音楽であらわす」ことを学習のめあてにしている。グループに分かれ、メンバー

資料5 「まねっこあそびをたのしもう」

題材名 「まねっこあそびをたのしもう」 教材名 「フルーツケーキ」(日向有 作詞 西澤健治 作曲) 「アイアイ」(相田裕美 作詞 宇野誠一郎 作曲)			
段階	◎ねらい○学習活動・内容	評価の観点と評価規準(評価方法)	教材の配列
1時間	◎友だちとまねっこして(交互唱)歌うことができる。 ○「アイアイ」「フルーツケーキ」を歌い、本時学習のめあてをつかむ。 ・交互唱に対する関心 ○「アイアイ」「フルーツケーキ」を歌い、曲の感じをつかむ。 ・歌詞から感じ取ったことについて	【関一(1)歌唱】 交互唱に興味・関心をもち、進んで学習に取り組もうとしている。(行動の観察)	
2時間 本時(2/2)	◎拍の流れを感じ取って、リズムを打ちながら歌うことができる。 ○「アイアイ」を歌い、身振りや歌い方をまねっこしながら楽しく歌う。 ・交互唱の楽しさの感受 ○「フルーツケーキ」に合わせて、リズム打ちをしなが歌う。 ・ことばのリズムの感受と表現 ○「フルーツケーキ」の歌詞を変えたり、リズム打ちをしたりして、表現を工夫する。 ・ことばに合ったリズムや表現の工夫	【関一(2)歌唱】 3拍子や4拍子のリズムにのった交互唱やリズム打ちの学習に進んで取り組もうとしている。(行動の観察) 【創一(1)歌唱】 交互唱や言葉のリズムの面白さを感じ取りながら、歌い方や強弱を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。(行動の観察、音楽ノートの記述、発言の内容)	
1時間	◎ 歌い方や体の動きを工夫し、友達と一緒に表現することができる。 ○「フルーツケーキ」をいろいろな楽しみ方で歌う。 ・替え歌にして ・打楽器を入れて ○「アイアイ」を工夫して歌う。 ・強弱や音色を工夫して	【関一(3)歌唱】 拍の流れにのって聴き合いながら歌ったりリズムを演奏したりしている。(発言の内容、音楽ノートの記述)	

【平成25年度九州音楽教育研究大会研究紀要より】

5 本時の展開 (ふかめる 2/2時間) ♪

主な学習活動と内容♪

1 「フルーツケーキ」を歌い、本時学習のめあてをつかむ。♪
 (1) 前時学習をふり返り歌う。♪
 ○ 3拍子の拍の流れにのって「フルーツケーキ」を歌うこと♪
 (2) どんなフルーツケーキにしたいかについて話し合う。♪
 ○ フルーツ名の部分を替えて歌うこと♪

めあて ♪
 うたで、おいしいみんなのふるうつけえきをつくらう。♪


2 歌詞を替え、表現を工夫する。♪
 (1) 自分がのせたいフルーツで拍の流れにのって、二人組で歌う。♪
 ○ 3拍子の拍の流れにのせて歌うこと ♪
 ○ 問いと答えの交互唱をすること♪
 (2) 友達の歌を聴いて、感じたことを話し合う。♪
 ○ 歌の気分を感じ取って聴くこと♪
 ○ 友達のよさを取り入れて歌うこと♪

C 「フルーツケーキ」 ♪
 自分たちの音楽表現を創意工夫するために、曲の感じと言葉のリズムやリズムの反復等との関係を感じ取ったり聴き取ったりする。♪

3 工夫した表現で全体を通して歌い、本時学習をふり返る。♪
 ○ いろいろなフルーツをのせて歌ったこと♪

資料6 「音楽でおはなしをつくろう」

題材名 「音楽でおはなしをつくろう」		
教材名 「ブレーメンの音楽たい」		
過程	配時	学習内容
考えをもつ	2	○「ブレーメンの音楽たい」のお話の内容について話し合い、テーマ曲を正しく歌うこと ○登場人物を表す4つのふしを歌ったり、楽器を選んで演奏したりすること
考えを出し合う 繰り返し合う 共感し合う	3 (本時 2/3)	○1の場面の表現を工夫すること ○2の場面の表現を工夫すること ○3の場面の表現を工夫すること
考えを創りあげる	1	○様々な演出を加えて音楽劇をつくり上げ、発表すること

過程	学習活動と内容	指導・支援
考えをもつ	1 前時学習を想起し、本時学習のめあてを確かめる。 ○ 前時までの学習内容 ・1場面の表現 ○ 本時学習のめあて どろぼうたちをおどかせようぶつちのうたを音楽であらわそう。	○ ナレーションをもとに、テーマ曲を歌わせ、登場人物の鳴き声を歌や楽器で表現させる。 ○ 各場面の情景画を提示することで、想像豊かに表現させ、学習の見通しをもつことができるようにする。
出し合う 繰り返し合う 共感し合う	2 だろぼうたちをおどかせ音楽をつくり、発表する。 ○ だろぼうたちをおどかせ音楽をつくること ・速さを変えて ・強さを変えて ・音程を変えて など 	○ 動物の鳴き声、足音を表すリズムや音を正しく演奏したり、工夫したことを書き込んだりできるように、グループごとに拡大楽器を用意する。
	3 グループごとに発表し話し合う。 ○ だろぼうたちをおどかせ音楽になっているかどうか確かめること ・速さはどうか ・強さはどうか ・音程はどうか	○ グループごとに演奏し、聴き合うことで友達の表現のよさを見つけてあげる。 ○ 発表するグループは動物になったつもりで、聴くグループはだろぼうになったつもりで話し合わせる。 ○ 子どもたちの表現の工夫が一目でわかるようにするために、強さカード・速さカードを用意する。 ○ 実際に音を聴いて確かめ合いながら表現を見直すことで、共感できるようにする。
	4 自分たちの表現を見直す。 ○ 速さ・強さ・音程をもとに見直すこと	

【平成25年度九州音楽教育研究大会研究紀要より】

明確に指示しなければならない。子どもたちはこれらが理解できると自主的に、ロバ、犬、ねこ、おんどりに合う音を選び、楽器の打ち方を工夫して音を追究していく。さらに、4人の音を反復させたり重ねたりしながら音楽の仕組みを使ってまとまりのある簡単な音楽をつくっていく。教師は子どもたちがどのようにしたらいいのかわからなくなっていると感じた時には、例えば、楽器の音を図形化したカードを並べて反復や重ねるといった音楽の仕組みを見える化して提示するなどの支援を行う必要がある。子どもたちのつまづきを予測し、それらに対応する適切な支援を準備しておくことが求められる。

個々のグループが協力する「音楽でおはなしをつくろう」という題材は、課題解決型、児童参加型の学習をグループで協同的に展開するなどアクティブラーニングの要素を多く含むものであるため、学習発表会や学芸会を利用して取り組むなど工夫したい。

(5) グループ活動

⑦ 5年生題材「言葉のイメージから音楽をつくろう」

雪が降る様子をイメージしながら言葉に合った音を探し、雪の降り積もる様子の移り変わりを音楽の仕組みを生かして表す学習である。グループごとに自分たちの表現を練り上げる場面では、子どもたちは、グループ学習の手順に基づいて学習を進めている。雪が解けていく様子を表現するために、だんだん弱く表現しようとするが、単に弱くするだけでなく演奏する人数を減らしていくことで音量を落とそうと表現の効果を確認しながらグループ学習を進めている。また、自分たちの学びの足跡を楽譜に書き込み、他のグループとの交流の場面で活用しながら自分たちの思いや意図を伝えている。そのグループがどのような過程でその表現に至ったか、一人一人の思いや意図を確認しながら学習が進められている。

グループの中で個々の考えを出し合い、それらを吟味して協同して表現を練り上げているアクティブラーニングであると考えられる。

①の「歌おう、調べよう、広げよう『ベートーベンの世界』」⑥の2年生題材「音楽でおはなしをつくろう」でも述べたが、グループ学習を進める上では、教師が子どもたち自身が学習を進める手順を把握していること、個々の学習記録やカンファレンスをもとに適切な支援を行うことが重要になる。

本実践のように少人数のアンサンブルで歌唱表現をする活動では、「自分の音程があっていない」「○○さんの声がずれている」と子どもたちも分かるようになるため、このような子どもたちのつぶやきにも配慮し

がロバ、犬、ねこ、おんどりの動物の鳴き声、足音を担当し、それらを表すモチーフを速さ、強さ、音程などの要素を変化させながら表現を工夫している。

グループ学習の中で、教師は「グループ学習の進め方」カードを配布している。子どもたちはそのカードを見ながら自分たちで学習を進める。グループ学習後の全体学習ではグループの演奏のよさを見つけたら、そのよさを自分たちの演奏に取り入れたりしている。最後は、さまざまな演出を加えながら、3つの場面の音楽をつなげて、学級全体で一つの作品をつくり上げる達成感を味わっている。学級全体で協力して音楽をつくり上げたアクティブラーニングである。

グループに分かれて音楽づくりの活動に進めるときに、教師は子どもたちの音楽づくりの活動を焦点化し「何をやるのか」「どのような手順で進めるのか」を

資料7 「言葉のイメージから音楽をつくろう」

題材「言葉のイメージから音楽をつくろう」
教材「雪」
指導計画

資料-46 モデル演奏の聴き比べ

資料-47 グループ活動の手順

グループ活動の進め方

2. 音楽の仕組みや音楽を特徴づけている要素を工夫して表現を高める。

(1) 終わり方を工夫する。

【思いや意図をもつための支援-⑧】
新しい工夫の方法に気付かせるためのグループ同士の聴き合い

【思いや意図を表現するための支援-⑨】
工夫を再現するための楽譜への書き込み

○ Bの部分はいくさんの人数で強く歌っているのが雪がたくさん降っている感じがします。
○ C:音がだんだん小さくなって雪が止まった感じがします。

○ 「変化」を聴き比べさせたことで、終止感を生み出す新たな工夫に気付く姿が見られた。

T:工夫する前の最後の部分と、工夫した後の最後の部分を比べて聴いてみましょう。(指示)
C:同じ繰り返しではなく、最後の音が低い音に変わっています。
C:最後の音だけがファからレに変わったことで終わった感じになっています。

○ 活動の手順を示し、進行役や聴き役などの役割を提示したことで、活動が明確になり、表現を録音する姿が見られた。

C:曲の終わり方をどう工夫したいのか考えを出してください。
C:雪が降ってなくなる様子を変えたいので、終わり方はだんだん小さくしたいです。
C:みんながだんだん小さくするんじゃなくて歌う人数を減らしたいです。
C:まず、Aくんのアイデアから試してみよう。
○ 工夫したことを楽譜に書き込ませたことで、自分たちの工夫を意識しながら演奏することができていた。

C:A音の変化は、終わった感じがよく表れているから、僕たちがしている強さの工夫と音の変化を一纏にしてみるのがいいなあ。
C:終わり方がいい感じにできたから今度はB音のように中の部分をもっと吹奏がふいているように大きく歌う工夫をしてみよう。

◆イ-② (様子の観察、学習プリントの記述分析)
◆カ-① (操作楽譜・ビデオの分析)

C:はじめは少しずつ降り始めるから人数を減らして歌い始めよう。
C:A音は聴いていてね。
C:今の声は少し弱く聞こえるからもう少し強くしよう。

【平成 25 年度福岡市教育センター研究紀要 (第 952 号) より】

ていくことが大切あり、適宜一人一人の音程やリズムが正しく演奏されるように技能面の指導をすることが求められる。子どもの実態に応じて適切な補説ができる準備をしておかなければならない。

(6) 言語活動の充実を図る活動

⑧ 2年生題材「ようすをおもいうかべてきいたり歌ったりしよう」

「小ぎつね」の1番から3番の様子を思い浮かべ歌い方を工夫する学習である。子どもたちは、歌詞と情景画からいろいろな小ぎつねの様子を出し合い、小ぎつねの様子を共有する。そして、1番の歌詞や情景画をもとに1番の小ぎつねの気持ちを想像し歌い方を工夫した後、2番、3番も同様に工夫している。全員で歌ってみて納得いかない部分があればさらに唱法、強弱や速度等を変えて表現を練り上げていく。1番から3番までの表現に満足した子どもたちは、4番の歌詞を作り表現しようとする意欲をみせ、主体的・能動的に次の学習に取り組んでいく。

自分の思いを主張することと友だちの意見を取り入れながら、学級全体で一つの作品をつくり上げる様子がわかる。低学年ではあるが、友だちの意見を認めながら話し合いを通して自分たちの表現をつくり上げた

アクティブラーニングである。

表現の美しさを言葉で表すためには、音楽の要素を知覚し、音楽のよさや面白さを感じていなければならない。例えば、「1番のこぎつねはおしゃれをして楽しそうだから弾んで歌いたい。」という子どもの発言があったときは「おしゃれをしていて楽しそうに表現したい」という感受と「弾んだ歌い方」という唱法を工夫した知覚が子どもたちの中でつながらなければならない。

低学年の子どもたちは、音楽を聴いて感じたことを表現する適切な言葉を知らないこともある。そのような場合、教師は子どもたちに1番のうれしくてたまらない小ぎつねの気持ちを形容詞や形容動詞を使って具体的に表現させてみる。例えば、子どもが「ふわふわ」と言う言葉を使ったならば、「ふわふわ」した感じはどのように歌唱表現したらよいかを、子どもたちとのやり取りの中ではっきりとさせていく。例えば「ふわふわした感じで歌っていると感じたところで手を挙げてみよう」と発問し、「ふわふわ」した感じを実際の歌唱表現で確かめ、どのように歌うとよいか

資料8 「ようすをおもいうかべてきいたり歌ったりしよう」

学年	教材	時	主な学習活動及び内容	目標を意識化させる手立て
1次	口ぶえふきと小犬 (鑑賞曲)	1		
		2	「ようすをおもいうかべてきいたり歌ったりしよう」	
第2次	小ぎつね (歌唱曲)	3	「口ぶえふきと小犬」を鑑賞する。 ○ 題名を想像する。 ○ 場面を想像する。 ・ 体を動かしながら ・ 手拍子やリズムをとりながら ・ 場面がかわるところに気を付けながら	
		4	「小ぎつね」を歌ったり演奏したりする。 ○ 曲全体を歌う。 ○ 鍵盤ハーモニカで演奏する。 ・ 正しい音程をとりながら	・ 1番の小ぎつねの気持ちを伝えよう ・ 教師による歌い比べを行う。
		5 (本時)	「小ぎつね」の1番を表現を工夫して歌う。 ・ 楽しそうに ・ 明るい声で	・ 1番の小ぎつねの気持ちを伝えよう ・ 教師による歌い比べを行う。
		6	「小ぎつね」4番をつくる。 「小ぎつね」を歌う。 「鑑賞曲」を聴く。 ○ 場面の様子を思い浮かべながら	・ 1番の小ぎつねの気持ちを伝えよう ・ 教師による歌い比べを行う。 ・ 小ぎつねの気持ちを想像し、歌詞や情景画から小ぎつねの様子を想像し、歌い方を工夫する。 ・ 2番、3番の表現を工夫して歌う。 ・ 少し強くなり ・ 小さい声で

【平成 22 年度福岡市教育センター研究紀要 (第 847 号) より】

を具体的にとらえさせていくのである。

教師には、言語活動と音楽表現を繰り返し、これらをつなげる営みを大切に授業を展開することが求められる。

3 アクティブラーニングのつながり

次ページの表-3は、考察した実践の中で顕著なアクティブラーニングの活動を◎で示し、題材を通して見たときに見られたアクティブラーニングの活動を○で示したものである。

表-3から、アクティブラーニングについて次のこと

が考察できる。

○どの題材においても、単独のアクティブラーニングで学習活動が進んでいることはなく、複数のアクティブラーニングが展開されている。

○課題解決・探究学習では、個人やグループの活動が多く取り入れられる。その過程では、学んだことを学級や学級の外に発信するために言語活動が活発に行われる。

○学級で取り組む「音楽でおはなしをつくろう」などの学習は、音楽科や国語科など教科横断的に学ぶことができ、さまざまなアクティブラーニングの活動を含ん

表-3 「小学校音楽科におけるアクティブラーニングの類型化」

小学校音楽科における学習活動例	課題解決・探究学習	学習問題解決	授業児童参加型	学協調・協同学習	活グループ	言語活動
○音楽科の授業において題材のねらいを探究する活動 等 ・5年生題材「歌おう、調べよう、広げよう『ベートーベンの世界』」において、子ども自身が興味をもった課題を選択し、課題別のグループで課題解決に取り組む学習活動	◎	○	○		○	○
○授業で提示される学習問題を解決する活動 等 ・6年生題材「曲想を感じ取って聴いたり演奏したりしよう」において、「木星」の気分やイメージを生かし、強弱の工夫など工夫の観点を明らかにして、グループで「木星」の演奏を練り上げる活動		◎		○	○	○
○表現・鑑賞の活動や鑑賞教室等の直接体験する活動 等 ・5年生題材「雅楽の響きに親しもう」において、雅楽の特徴や雅楽の音色をつかむために、鑑賞会やワークショップなど直接体験、模擬体験する活動	○	○	◎	○		
○体を動かす活動等、能動的に学習に取り組む活動 等 ・1年生題材「ようすをおもいうかべながらきこう」において、「おどるこねこ」の3つの場面の曲の気分を感じ取り、こねこがどんなおどりをしているのかをつかむために、主な旋律を口ずさんだり体を動かしたりする活動		○	◎			
○個々の考えを出し合い、音楽の表現を高めたり、曲想を捉えたりする活動 等 ・1年生題材「まねっこあそびをたのしもう」において、自分たちの音楽表現を創意工夫するために、曲の感じと言葉のリズムやリズムの反復等との関係を感じ取ったり聴き取ったりしながら、「フルーツケーキ」を全員でデコレイトし音楽を完成させていく活動		○		◎		○
○全体で一つの作品をつくり上げる活動 ・2年生題材「音楽でおはなしをつくろう」において、「ブレーメンの音楽たい」の話の3つの場面の音楽をつくるため、グループに分かれて速さ、強さ、楽器の音程を観点に表現を工夫し、様々な演出を加えて学級で音楽劇をつくり上げる活動	○	○	○	◎	○	○
○共通の課題意識をもった子どもが集まり課題解決する活動 等 ・5年生題材「言葉のイメージから音楽をつくろう」において、雪が降る様子の変化を音楽で表すために、グループに分かれて、グループ活動の進め方の手順に従い、音楽の始まり方や終わり方など表現を工夫する活動	○	○		○	◎	○
○自分の音楽表現に対しての思いや意図を出したり鑑賞活動に対して批評したりする活動 等 ・2年生題材「ようすをおもいうかべてきいたり歌ったりしよう」において、「こぎつね」の1番と2,3番の歌詞や挿絵やからこぎつねの気分を出し合い、速度や強弱を工夫して表現を練り上げる活動		○		○		◎

でいる。

- グループ活動や一斉学習で、個々の音楽表現の工夫を取り入れ全体の表現をつくり上げていく場合、拡散的思考と収束的思考が組み合わされ学習が展開していく。その過程で子どもたちに協調・協同性が培われ、アクティブラーニングが進む。

III 研究の成果と課題

1 成 果

○ 実践から、アクティブラーニングしている子どもの活動を、課題解決・探究学習、問題解決学習、児童参加型授業、協調・協同学習、グループ活動、言語活動の充実を図る活動等に一般化し、6つに類型化した。この6つに示した分類はそれぞれが独立しているものではなく、それぞれ関連し相乗作用を働かせながら子どものアクティブラーニングをより活発にしているものとする。

これらの実践はすでに音楽科の授業の中では幅広く実践されている学習活動である。子どもをアクティブラーニングさせる素材は広く存在している。授業をリノベーションしていけば、アクティブラーニングの可能性はさらに広がると考える。

2 課 題

- 年間指導計画の中でのアクティブラーニングの位置付け

アクティブラーニングは子どもの主体性を大切にしながら授業を行う場面が多い学習である。だからこそ、教師が「教えること」と子どもが「学ぶこと」のバランスをとりながら年間学習指導計画を作成することが必要である。どの題材で、どんなねらいをもってアクティブラーニングを取り扱うのかを明確にすることが大切である。

- 子どもたちの学びと学んだ方法の累積

自分たちの学習プリントなど具体的な学びや学んだ方法の累積に加え、演奏した音楽の記録などの情報をポートフォリオに残したい。実際の自分の表現である音楽を通して自分の音楽的な表現の向上を知ることが、次への課題やさらに挑戦したいことを見つける手立てとなる。

- アクティブラーニングの発達段階、学年に応じた系統性

学年の発達に応じたアクティブラーニングがあることを考える。類型化した学習活動において「何ができたか」「何ができるようになったか」を学年の発達に応じてその系統を明確にする必要がある。

引 用

- 1 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）用語集」（平成24年8月28日）より
- 2 「学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）」（平成20年3月25日）より

参考文献

- 1 文部科学省 小学校学習指導要領解説 音楽編 開隆堂出版（平成20年）
- 2 子供とかかわりを深める音楽科授業論 金本正武著 東洋出版社（平成9年）

参考資料

- 資料1 平成11年度音楽教育推進事業団“21世紀の会”研究助成研究発表会要録より 5学年題材「歌おう、調べよう、広げよう『ベートーベンの世界』」
- 資料2 平成22年度福岡市教育センター研究紀要（第847号）より 6学年題材「曲想を感じ取って聴いたり演奏したりしよう」
- 資料3 平成15年著者実践 5学年題材「雅楽の響きに親しもう」
- 資料4 平成17年福岡市立平尾小学校研究紀要より 1学年題材「ようすをおもいうかべながらきこう」
- 資料5 平成25年度九州音楽教育研究大会研究紀要より 1学年題材「まねっこあそびをたのしもう」
- 資料6 平成17年福岡市立平尾小学校研究紀要より 2学年題材「音楽でおはなしをつくろう」
- 資料7 平成25年度福岡市教育センター研究紀要（第952号）より 5学年題材「言葉のイメージから音楽をつくろう」
- 資料8 平成22年度福岡市教育センター研究紀要（第847号）より 2学年題材「ようすをおもいうかべてきいたり歌ったりしよう」